

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						4.0
Q1 室内環境			0.40			3.9
1 音環境		4.0	0.15			4.0
1.1 室内騒音レベル	一般事務室としての性能確保を目標とする	4.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音	高性能サッシ及び複層ガラスによりT2以上を基本とする	4.2	0.40			
1 開口部遮音性能		5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:吸音用あなあきせっこうボード・岩綿吸音	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.7	0.35			3.7
2.1 室温制御		3.2	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	快適な執務空間を確保する外皮性能を確保	4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.37			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	床吹出空調の採用(執務エリアの主空調方式)	5.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.6	0.25			3.6
3.1 昼光利用		3.8	0.31			
1 昼光率		3.0	0.59	3.0	-	
2 方位別開口						
3 昼光利用設備	ライトシェルフ及びトッブライトを備えたエコボイド	5.0	0.41	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.29			
1 昼光制御	庇及びブラインドを設置	4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	全般照明で750lx	4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		4.5	0.25			4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		3.3	0.30			
1 換気量	1人当たり30m3/hの新鮮外気を導入	4.0	0.34	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.34	3.0	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視	執務エリアはCO ₂ 濃度を測定(導入外気量の適正化制御)	5.0	0.50			
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.9
1 機能性		3.9	0.40			3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40			
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	適合基準に準拠(適合認定取得)	4.0	0.35			
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30			
1 広さ感・景観	天井高2.7m以上かつ南面北面に開けた窓	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	4.5階西面に配置、1・7階に自販機設置	5.0	0.33			
3 内装計画	要所に地元産材をはじめとした木材・和紙等の内装を計画	5.0	0.34			
1.3 維持管理		4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	外周にメンテナンス用バルコニーを設置、高耐久性の外装仕上げを	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保	洗濯機置き場や洗い場を備えた清掃員控室を計画	4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		4.0	0.30			4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.2	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	市民交流部分は重要度係数1.25	4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能	庁舎部分は免震構造	5.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数	100年を目標	4.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクト、厨房排気ダクト、給湯・湯沸排気ダクトにガルバリウム鋼板採用	5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水に塩ビラインング鋼管、排水通気に塩化ビニル管、冷温水配管に配管用炭素鋼管(白)	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		4.2	0.20			
1 空調・換気設備	重要系統の換気、空調は個別方式とし非常用発電機回路、中央熱源系統は電気+ガスのミックス熱源	5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備	節水器具の採用、緊急用汚水貯留槽の設置、雨水利用、受水槽に緊急水栓設置	5.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備	通信の多様化、浸水配慮、災害時通信設備対策、ケーブルテレビ対応	5.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり	1.xlsx		4.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	基準階高3.9m		4.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	両端コアのオープンオフィス		5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり	余裕をもった荷重設定		4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	仕上壁内に配管敷設し、仕上材を痛めることなく配線更新可能		5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上壁内に配管敷設し、仕上材を痛めることなく配線更新可能		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	鳥取市の顔となる、周辺・隣接公園も含め連続した景観の形成		5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	在来種、地産産材を使い、利用しやすいスペースを計画		5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	庇と緑、デッキスペースにより、うるおいある空間を創出		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	外壁及び窓の高断熱化		4.1	0.19	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用	ライトシェルフ・自然換気(ナイトバージ共)		4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.69		4.1	0.50	-	-	4.1
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	BEMSにより用途別のエネルギー消費傾向、熱源COPの評価可能		5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.2
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水	節水性便器の採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	雨水の雑用水利用		4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.6	0.60	-	-	4.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉鋼材		5.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ボード:天井、ビニル床タイル:床、ビニル床シート:床		5.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	県産材使用		4.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	主にSRC柱梁・乾式壁により分別可能、ユニットシャワー等採用		5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.20	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用	対象物質を含まない塗料・床材の使用		4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1 消火剤	サーバ室に不活性ガス消火設備(N2)設置		4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮	LCCO2を一般的な建物に比べて削減		3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	流出抑制の指導はないが一部を貯留		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	十分な駐輪場・駐車場を確保		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	屋外広告を設けず、屋外照明についても棟間で使用している		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	南面についてはライトシェルフ・庇、東西面についてはルーバーの設置		4.0	0.30	-	-	